「置かれた場所で咲く」ために

「置かれた場所で咲きなさい」という有名な言葉は，様々な人の心を動かす力があります．しかしながら，突然ぽんっと置かれて咲ける花はいいですが，そうではない花のほうが多いのではないのでしょうか．

では，咲くためにはどうしたらよいか．

置かれる前に，咲くための準備をどれだけするかが大切なのではないかと思うのです．置かれる場所を想定し，置かれた後にどうしていくかを，置かれる前に考えておく．

医師は大学病院や国内外の研究機関などで専門的に仕事をしていく場合を除いて，誰もがいつかは1人，または科のトップになり，各々で責任をもって，患者の治療，組織の運営をしなくてはいけなくなります．その時に自信を持って，やりがいを持って職務を果たすために，そこから逆算して「今何をすべきか」を考え続けることが大切だと思っています．

どんな仕事でも「やりがい」が必要で，医師もまた，同様だと思います．平成28年4月から愛知県にある，春日井市民病院皮膚科へ赴任した私の今のやりがいは，第一に病院にとって皮膚科が必要だと思えたとき，第二に他科のDr.に貢献できたと思えたとき，第三に患者のニーズに応えられたと思えたときだと思います．約8年前に同病院で初期研修医だった時に比べ，皮膚科の専門分野において，病院，他科Dr.や患者に貢献できたと思える瞬間に感じるやりがいは，とても大きいものがあります．そして，重症の患者に対応することも必要だと思いますが，それよりも当たり前の皮膚科診療をこつこつと誠実に積み重ねていくことが最も大切だと信じています．一昨年から名古屋市立大学の関連病院となり，昨年1年間は非常勤体制で支えてくれていた状況からのスタートでもあり，この半年はまずは当たり前の皮膚科診療を積み重ねていく事を大切にしてきました．

研修医の先生が皮膚科をローテートし，外来見学中に「先生は外来を楽しんでいますよね？」と言われることがあります．忙しくても，比較的時間があっても，同じように外来を楽しむことができるようにと考えています．

後期研修から数年間，焦りと不安で一杯の中，待ち時間に怒った患者の対応に明け暮れる外来を，いつかは楽しめるようになってやろうと思っていました．ではそのためにどうしたらいいか，問い続け，考え続ける中で，常に苦手分野を作らないようにすること，苦手分野でも治療はさておき，診断と患者のマネージメントだけはできるようにすること，内科，整形外科などとオーバーラップする疾患も皮膚科で検査診断し，該当科に根拠をもって紹介することなどを重要視してきました．また，自分の周りの環境を働きやすい環境に作り替えていくことも大切です．赴任当初は当然，今までの先生方のやり方というものがあり，アウェイ感がとても強かったのですが，忍耐強くお願いしたり，システムを構築したり，コメディカルに時間をかけて説明し，各々の言い分などを理解していく中で，少しずつ効率的に働ける環境を作っているところです．そして，こういった働く環境を自分のところからセットアップしていくことも，楽しむようにしています．

書のまち春日井「道風くん」

救急車年間約1万台（H27 9324台/年），救急外来患者34699人/年を受け入れる当院では，平成27年12月に救命救急センターに指定され，3次救急を担う病院となりました．救急車受け入れ台数は，平成25年の某雑誌でのランキングにおいて愛知県1位，全国でも名だたる有名病院をおさえて，8位にランクインしています．4月からまだ半年ですが，皮膚科とはいえ，アナフィラキシーショック，壊死性筋膜炎，ガス壊疽，敗血症性ショックなどのショックバイタルの患者が次々搬送されてきます．当院には頼れる外科内科医師が多数在籍しており，皮膚科ですからと逃げようとすれば逃げられるのだろうと思います．しかし，この瞬間のために今まで準備してきたのだという思いで，午前の外来の最中であっても，受け入れを断らないようにしています．もちろん，その

際に外来患者が帰ってくれるわけでもありませんので, 2人でなんとかこなすしかないのですが, 部下にも恵まれ, 今のところでは3次救急病院の皮膚科として貢献できているのではないかと思っています.

春日井市民病院は，名古屋駅から直線距離で13.4km離れた場所にあり，愛知県で6番目に人口の多い（31万人）春日井市の中核病院です．平成10年に現在の140,200m^{2}の敷地に開院し，現在22科，医師数140人，一般病床556床，感染症6床，外来患者数1334.7人/日，入院患者数14015人/年，38.3人/日，手術件数5230件/年, 人工透析述べ件数12626件の比較的大きな病院です.

当院に赴任し半年が経ちますが，次のやりがいは，皮膚科の面白さを部下，研修医，看護師に味わわせることだと思っています．他人に面白さを伝えるうえで最も大切なことは，自分が心から本当に面白いと思っていることだと思います．研修医は，救急外来にも皮膚科疾患が多く来院することを経験しているため，興味をもってくれている先生も多く，各々の趣味に合わせて時間を共有するのも大切にしています．また，看護師も創傷，スキンケア，美容などにも興味をもつ人も多く，それぞれのニーズに応える形から面白さを伝えていき，皮膚科全体に興味をもってもらえるようにと企んでいます.

新しいことに手を出すこと，自分の周囲の環境を働きやすいようにセットアップしていくこと，一人で作り上げていくこと，助けてくれる仲間を増やすこと，これらは大学病院時代に教わりました.

自分がどこにやりがいを感じ，どんなことにモチベーションを感じるか, これらは一人医長時代に考えました. 置かれた場所で咲けるように，楽しめるように，少し先を見ながら, ひとつひとつ準備をしていこうと思います.

2384文字